

## 5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

### 5-2-1 教育改革ICT戦略大会

#### <事業計画>

教育の社会的責任を共通認識する中で、教育改革の基本問題、情報通信技術を活用した教育の政策、教育改善の工夫、情報教育の進め方、最新の情報技術及び情報環境などの知識・理解を啓蒙・普及するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「教育改革ICT戦略大会」を実施する。

#### <事業の実施状況>

事業の実施は、「教育改革ICT戦略大会運営委員会」を継続設置し、教育改革ICT戦略大会を開催した。以下に、委員会の活動状況について報告する。

#### 教育改革ICT戦略大会運営委員会

平成23年5月7日、11月28日、24年3月8日に延べ39名（平均1.3名）が出席し、3回開催した。教育改革を行うための基本問題や情報通信技術を活用した教育改善、最新の情報技術や情報環境について啓蒙・普及するため、「教育改革ICT戦略大会」の企画・実施準備を行った。

##### (1) 開催計画の策定

- ① 大会テーマを「日本の大学教育機能を再考する」として、未知の時代に立ち向かって対応できるような教育の在り方を抜本的に議論するため、大学が果たすべき教育機能について基本的な課題について意識合わせを行うとともに、教育の政策、教育・学習の環境、教育・学習の支援体制などについて、ICTの可能性と限界を確認する中で教育のイノベーションを探求することにした。
- ② 未来を切り拓いて行く意欲と能力を獲得させるためには、教員が一人で教える授業から、学生が自立して学べる教育を実現できるようにする教員の意識改革とそれを大学ガバナンスとして実行する責務の重要性を明らかにした上で、具体的な教育改善モデルの考え方、学ぶ授業に転換するための学生による教え合い学習、学びの振り返りをシステム化した学習ポートフォリオ、多機能携帯端末の教育利用について個別に議論をすることとし、次頁の通り開催プログラムを策定した。
- ③ ICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行うとともに、大学・企業共同によるICT導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。

##### (2) 開催結果

9月6日から8日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に、136大学、14短期大学、賛助会員9社が参加し、発表者や賛助会員を含めて386名が参加した。

教員に自分の授業という意識から、学生に最良の授業を提供するという意識が必要で、一人での授業からICTを活用して他者の授業を取り入れるなどの意識改革が必要であることを認識した上で、大学ガバナンスによるイノベーションが必要であることが認識された。また、授業改善モデルでは、教員同士の連携による学習支援体制、ファシリテータを導入した振り返り学習の必要性を確認するとともに、大学ガバナンスへの働きかけが重要であることを確認した。教え合い学習では、ファシリテータの研修など組織的研修の必要性と、質保証のためのeポートフォリオの課題が確認された。大会の概要は巻末のⅢ、事業報告の附属明細書【2-14】を参照されたい。

# 平成23年度 教育改革ICT戦略大会プログラム

9月6日 全体会

9月7日 テーマ別自由討議  
 ■課題提起の未定部分は、逐次Webに掲載します  
<http://www.juce.jp/LINK/taikai/taikai2011.htm>

会場	3階 富士
11:00	<p><b>開会挨拶</b>                      向殿 政男 会長 (公益社団法人 私立大学情報教育協会)</p>
11:10	<p><b>今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申) 説明</b>                      大学・短期大学の設置基準が改定され、社会的・職業的自立に向けた教育プログラムが授業を通して本格的に開始されている。中央教育審議会の答申(平成23年1月30日)では、高等教育におけるキャリア教育の充実と職業教育の充実を掲げる中で、とりわけ自立した職業人の育成と学生の多様な職業教育ニーズへの対応を目指して、職業教育のための新たな高等教育機関設立の必要性を指摘している。                      ここでは、答申がイメージする新たな高等教育機関の設立と現在の大学・短期大学との関連性をどのように考え、社会の信頼に応え得る人材育成に取り組むべきかを文部科学省の説明を受けて確認する。                      文部科学省 喜久里 要 氏 (高等教育局私学助成課課長補佐、前大学振興課専門官)</p>
12:00	休 憩
13:15	<p><b>未知の時代を生き抜く力を身につける高等教育のあり方</b>                      若い世代に未来を切り開いていく意欲と能力を獲得させることが、現役大人世代にとっても最大の責務である。教員が培ってきたあらゆる知識と経験を次の世代に引き継いでいくことができていくよう、教員一人ひとりの能力を超えたレベルで高等教育を考えなければならぬところにある。例えば、デジタルやネットワークを活用して世界の学識者や社会から学べるようにする仕組みなどを通じて、一人の教員が教える時代から学生が自立して学べる教育に転換していくことが必要となる。今こそ日本を教えるという教員一人ひとりの危機意識が必要であり、このような視点に立った高等教育の在り方について抜本的に見直す機会としたい。                      学校法人慶徳義塾 安西祐一郎 氏 (学事顧問)</p>
14:00	<p><b>これからの大学マネジメント</b>                      大学からの人材育成の在り方をイノベーションするために、大学ガバナンスの観点から教育改革に求められる大学運営のマネジメントを自覚する。大学教育の質のすべての教員や職員が生活のためのものではなく、未来を切り開いていく若者の育成にあることを大学として組織的に意識合わせし、理事會、教授會、職員會が一体となった組織運営の重要性について理解を深める。                      学校法人国際基督教大学 北城 悟太郎 氏 (理事長)</p>
15:00	休 憩
15:15	<p><b>学士課程教育の分野別質保証 ～分野別の教育課程編成上の参照基準～</b>                      大学の学びを通して社会や世界に貢献する力を提供できるようにするために、学士課程教育の分野別質保証(分野別の教育課程編成上の参照基準)について、最新の検討状況を事例として報告いただき、大学教育の質保証への取り組みの参考とする。                      日本学術会議 北原 和夫 氏 (分野別質保証検討委員会委員長)</p>
16:15	<p><b>産学連携による情報系人材の教育支援</b>                      社会の信頼に応えられる教育を実現していくには、産業界との連携・協力は不可欠である。とりわけ、情報系を専門とする分野の人材育成は教員と企業現場とのオーブンの意見交換の場が少なく、大学教育の目標と企業の人材育成の目標とが一致していない。そこで、産業界との意見交換する中で、大学教育と産業界との役割を明確にし、教育改善に必要な支援の仕組みを協議できる場を作る必要と考え実施している「産学連携人材ニーズ交流会」について紹介し、産業界による教育支援の在り方を模索する。                      私立大学情報教育協会・情報教育研究委員会                      担当理事 向殿 政男 氏 (明治大学理工学部教授)                      情報専門教育分科会主査 大原 茂之 氏 (東海大学専門職大学院臨床実践研究科教授)</p>
17:00	終 了

10:00	<p><b>[分科会A] 未来に立ち向かう人材育成を目指した教育改善モデルの考察</b>                      現在の大学教育での学びが比較的单位取得のための試験対策に終始しており、学びが定着しないまま大学を卒業する例が多くなっている。そこで、学習した知識・技能が卒業後に社会で発揮できるよう、ICTの活用も含めた理想的な教育改善のモデルを研究するため、本協会の分野別委員会での検討内容の一部を報告し、今後の教育改善のあり方を考察する。                      課題提起: 私立大学情報教育協会                      英語学教育FD/ICT活用研究委員会 副委員長 田中 宏明 氏 (京都府立大学経営学部)                      物理学教育FD/ICT活用研究委員会 委員長 藤原 雅美 氏 (日本大学工学部教授)                      私立大学情報教育協会 井端 正臣 事務局長</p>	会場 5階 大宮
10:00	<p><b>[分科会B] 学生による「教え合い」の学習支援</b>                      教える授業から学ぶ授業に転換するため、学生自らが教え合い、学び合う学習環境が不可欠となる。その一つの対策として学生同士による教え合いを大学として組織的に導入している事例を踏まえ、ICTを利用した運営体制、支援学生の研修、学内雇用制度など、どのように関わっていくことが望ましいか、大学としての関与の仕方を考察する。                      課題提起: 関西大学 岩崎 千晶 氏 (教育推進部助教)                      金沢工業大学 鹿田 正昭 氏 (環境・建築学部環境土木工学科教授)</p>	5階 穂高
12:30	<p><b>大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)の概要紹介</b></p>	各会場
12:45	休 憩	
14:00	<p><b>[分科会C] eポートフォリオによる振り返り学習の支援</b>                      学びの目標を自己点検・確認させる一つの手段として、学びの成果を可視化するためのeポートフォリオの活用が進みつつあるが、現在は自己管理・点検させるまでに留まっている例が多い。そこで、学生一人ひとりの課題と向き合い、組織的に学習指導、キャリア形成指導を行い、不足している能力を卒業までに身に付させるための振り返り学習の場を提供する仕組みを考察する。                      課題提起: 国際基督教大学 日比谷 潤子 氏 (副学長、総合学習センター長)                      慶徳義塾大学 竹村 英樹 氏 (教職課程センター准教授)                      昭和大学 片岡 竜太 氏 (歯学部准教授)</p>	5階 大宮
14:00	<p><b>[分科会D] 「知のインフラ」多機能携帯端末の教育利用</b>                      多機能な携帯端末の普及により大学での学び方も変わりつつあり、授業資料の配布・閲覧、授業映像の配信、授業時アンケートなど、多くの可能性が期待される。知的な情報や資料がオープン化されればされるほど、いつでもどこでもグローバルな学びの可能性となることから、多機能携帯端末の新しい利用方法を考察する。                      課題提起: 青山学院大学 宮治 裕 氏 (社会情報学部准教授)                      横浜商科大学 小濱 哲 氏 (貿易・観光学教授)</p>	5階 穂高西
16:45	<p><b>情報交流会</b>                      ※参加費 別途3500円が必要です。</p>	6階 伊吹
12:30	<p><b>大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)</b></p>	5階 廊下
17:00		

9月8日 大会発表(70件)